**令和３年第２回総合開発委員会計画部会　委員発言概要**

日時：令和３年６月２日（水）15:30～17:20

場所：Web会議（事務局：道庁別館庁舎 ９階 第１研修室）

【小林委員】

* p80「連携と交流を支える総合的な交通ネットワークの形成」の部分には、物流に関する課題を明示し、強力に取り組んでいくべき。
* Society5.0がめざすもの、そして、そのための礎をこれからの４年間でどう作っていくのかということを盛り込むべき。
* 木材の需要は全国的にも非常に高くなりつつある。北海道の木材を活用していくという方策を考えた上で、森林を若い木にシフトしていく努力が必要。
* IRについては、理解を促進しながら議論していくことが必要。IRについて検討を進めるという記述は残していただきたい。

【佐藤委員】

* p27「本道の自然・文化などの特性を活かしたアドベンチャー・トラベルやワーケーションなどといった新しい旅行スタイルが定着し、高い評価を得ています」とあるが、「ワーケーション」は旅行スタイルではない捉え方をすべき。
* 第１章「総合計画の考え方」に、北海道らしい、人の気持ちをつかむような表現を入れるとよい。
* 観光の部分（p63～64）については、「北海道７空港を利用した・・・」という文章を冒頭にもってくるとよいのではないか。
* IRについては、観光の一部として使われていると捉えており、北海道らしいものを「検討」することはよいと思っている。

【武野委員】

* 意向調査に関し、「ブラックアウトへの対応で課題となったこと」、「脱炭素社会に向けて取り組んでいること」、「新型コロナの経験を踏まえ、今後、力を入れようと思っていること」といった問は、企業・団体・ＮＰＯだけではなく、道民にも聞くべきであった。
* p1の14行目「世界的に流行したことを踏まえ」は「世界的に流行（パンデミックに至った）したことを踏まえ」と修正すべき。
* p18の下から２行目「コロナ以前の回帰にとどまらない」は「コロナ以前への・・・」とすべき。
* SDGsのゴールのアイコンが小さい。
* p53に「有機農業の拡大」という趣旨を追記すべき。
* p81に「ICTの活用、高齢者をはじめとするIT弱者への教育支援」といった考え方を盛り込むべき。
* p73にある北海道・北東北の縄文遺跡群に関する記載は、世界遺産登録を踏まえた内容に修正が必要。
* p73「アイヌの人たちの歴史や文化に関する理解の促進に取り組みます」は「『正しい』理解の促進に取り組みます」などと修正すべき。
* 北海道は、Society5.0あるいはデジタル・トランスフォーメンションを使って、日本をどうリードしていくのか、というぐらいの気構えが必要。
* 理念を書き込んだ、憲法の前文のような前文があってもよい。
* 総合計画が掲げる政策の方向性は、各部局で十分検討され、道民の理解と支持が得られた個別計画に立脚したものでなければならないと考える。道民世論が分かれる問題について、専門的な知見抜きに短時間で論議することは、当部会の論議にふさわしくない。IRの記述については、今回は見送るべき。
　議論することは当然だと思うが、この計画の中に文言を入れることとは別問題。総合計画は道民に対するメッセージであり、「IR」の二文字を入れることで、総合計画の中で認知したと捉えられかねない。

【髙橋副部会長】

* p49に「外国人を含む住民や観光客に対する災害情報の伝達」とあるが、障がいをお持ちの方などもいるので、「要配慮者」という言葉でまとめるとよい。
* p84下段に「・札幌市の都市機能と道内市町村が有する資源を結びつけ～」という文章があるが、明確に読み取れないので、記載を分割した方がよい。
* 見直しに伴い新しい文言が盛り込まれているので、用語解説を丁寧に作成すべき。
* メッセージ性をしっかりと盛り込むべき。
* これから重要になってくるのは「共助」。行政がNPOや企業と協働して公共サービスを提供するというつくりになっているが、「横」の仕組みづくりが大切だということを計画の後半部分にでも書き込むべき。
* 観光には幅広いターゲット層があり、ＩＲを除いて考えることはできない。しっかりと議論しなければいけないことだと思っている。北海道らしいＩＲコンセプトを構築するという文言はあってもよいと思う。

【森崎委員】

* 総合計画の記述は「縦型」となっている印象。「北海道ブランド」、「北海道モデル」という形で「横」の思考を表現できないかと思っている。
* IRについては、道民の声を聞く機会があってもいい。

【山本部会長】

* 「Society5.0」、「デジタルトランスフォーメーション」は重要なキーワード。これを武器として、北海道の安心安全を達成する、産業の活性化を目指す、輝くためにこれを使うという考えを盛り込んではどうか。
* 有機農業というのは重要な切り口で、それが北海道の魅力とか、食産業に対するブランドを付け加えるということがあるが、一方で、食料自給量の確保という課題もあり、そこのバランスだと思う。
* 北海道らしいIRコンセプトがどういうものかということを考えることは否定できないと思う。